

はじめに

日高町の厳しい寒さも緩んで過ごしやすい季節となりました。先生方においては、明日からの中間考査の問題作成、生徒への事前の指導にご尽力いただき感謝申し上げます。また、考査後はすぐに定体連の支部大会が控えており、日頃から生徒に指導援助してきた成果を他校との交流のなかで実感できる機会となりました。

体育・スポーツは、勝敗だけが全てではありませんが、各競技ともに勝利して、生徒の自信や充実感・満足感を得て欲しいと願っています。どうぞよろしくお願いいたします。

全道校長会を終えて

5月9日(火)、10日(水)の2日間、全道の校長会がライフォート札幌で行われました。全道各地から全ての道立高校、市町村立高校の校長先生が一同に会して、国や道での教育課題や今後の展望について意見交換しました。

来賓で参加された道教委の役員からは、①学習指導要領改訂に向けた準備、②高大接続に向けた(現在の中学校3年生が実施)教育課程編成、③生徒が安全・安心した学校生活を送るための環境整備、その指導に向けた④教職員の資質能力向上と服務規律の確立等が伝達されました。

学校経営において教職員個々の様々な考えがありますが、これら地域の地域や日本を支えていく生徒の健全な育成のための人材育成、そして教育(学校)の役割は大変重要なことを改めて実感しました。

校長だけが危機感を持って学校経営しても直接的に生徒と係わる教員まで浸透しないと何も意味がありません。職務に関しても個人の資質の部分もありますが、自分がその境界線に立った時、正確な自己判断ができるための能力は日々の生活から養っていくものです。

普段からの献身的な細やかな指導体制により、日高高校の教育活動は、生徒たちの人格形成に向け、最高の場となっていることを確信しています。

今後ともよろしくお願いいたします。

<全道校長会での重点事項(抜粋)>

- 1 教育の質を確保・向上
- 2 高大接続に向けた整備
- 3 いじめの問題への対応
- 4 特別支援教育の充実
- 5 信頼される学校づくり
- 6 時間外勤務の縮減
- 7 文書事務の適正処理
- 8 望ましい生活習慣とネット利用
- 9 教職員のメンタルヘルス
- 10 体育活動中の事故防止
- 11 外国語・国際教育の充実
- 12 社会の充実・発展への人材育成

最近の学校<適正な勤務に向けて>

最近の学校現場の課題の一つに、学校の「多忙感」があります。人によっては「多忙感」ではなく、「激忙」だという人もいます。「多忙」もある程度は「活気」に通じますが、それを超えると日々予定をこなしていくのに精一杯に陥る危険があります。このような状況の中でも、教育には全力を傾けることが必要であり、多忙だからと言って大体で済まされるものではありません。では、どのようにしていけばよいのか。例えば、関係書類の作成や研修の実施一つでも綿密な計画や事前事後の様々な準備や処理が必要

です。全ての面で提出書類や各種調査は加算される一方で、授業時数は増えているのに、勤務すべき時間は原則的に減っています。そこで、業務の効率化をしたいところですが簡単に効率化できない現実があります。このような中、教職員も余裕が失われ、生徒と触れ合ったり、職員相互が情報交換したり、教材研究したりできる時間も十分とは言えません。プライベートな交流も少なくなる一方です。

多忙なとき、一番してはならないのは「生徒の教育に直接関わる時間」を削減・省力化することです。どうしても時間が不足するならば、それ以外の時間を削減または省力化すべきです。「どの仕事も一生懸命やる」のが理想です。しかし、時間も労力も限られている以上、その熱意には温度差があつていい。一番熱く一生懸命やらなければならないのは授業、生徒との人間関係を中心とした学級経営、保護者対応、研究・研修です。前の二つを一生懸命する教師は多いが、後ろ二つは後回しの教師も少なくない。しかし、この時代、何事も保護者を味方に付けなければよい教育はできません。また、研究・研修に力を注がないと今は何とかなっても未来がありません。研究・研修は自分と生徒たちの未来に対する投資です。学校の計画は基本的には1年サイクルで成り立っています。それが悪いわけではないが、2年サイクルでできるものは、2年サイクルにした方が、ゆとりある計画で内容も充実することもあります。

どの学校も様々な課題を抱えています。本を何冊も読む時間があればそれにこしたことはありませんが、その余裕がないならば、他校から、他職員からそのエキスをいただくことにより、明日の授業に生かしていただきたい。

昔と比較して、今の学校が多忙なことは事実です。だからといって自転車をこぐのを止めたり近道を進むのではなく、物事に軽重を付けながら「生徒の教育」に関わる部分をむしる時間をより多く割けるような学校にしていかなければなりません。「今一番大切なことはこれで、最初にやることはこれだ」という道筋を立てることです。

私たちが係る「教育の分野」は複雑化を増すばかりですが、それら課題に対して、その出所が何処であり、いかなる要素特性を有するかを「勇気と冷静」をもって解明し、迅速果敢に対策を講じていくことにプロフェッショナルを発揮できるかが問われ続けています。

生徒の矯正すべき個性は矯正し、才能や個性の良い面を発揮させる教育システムを推進してください。

教師一人一人が、真剣に生徒と向き合う中で、学習活動を中心に学校行事や部活動の楽しさと成就感を実感させるために、「今、何をすべきか!」を常に問い続けることができる教員集団を継続していきましょう。

適正配置計画会議<通称:適配>

今年度、第1回目の適正配置計画会議が5月12日(金)に、日高合同庁舎で開催されました。この会議は各管内の高等学校の入学人数の推移による学校の再編、統合や閉校等、国や道、各地域の方針実施に向けて意見要望を確認する場です。

今回の日高管内での中学校生徒が他管内へ流出する人数が増加する中、原因と対策を検討しました。一番の懸案事項は出口保証の件です。しかし、管内高校(浦河高校)では札幌医科大学医学部へ現役合格させ、地元の高校に残っても道教委で推進している教育水準保証の観点で、どの学校でも求められている教育を受けることができるよう保証されていることを確認し、管内の小中の代表校長には伝達されました。今回は、管内高校の小中学校との連携した事業について各校長先生から説明があり、数年前に閉校となった様似町の教育委員会と中学校の関係者から、各町の試みが羨ましいと声が上がりました。

今後も「地域とともにある学校」として、町教委、地域社会、小中学校との連携を十分に図りながら、健康に留意して協働して頑張りましょう。